

# 公立大学法人岩手県立大学の第三期中期目標(案)の概要

資料№2-1  
平成28年10月7日  
評価委員会

開学⇒法人化・第一期中期目標⇒第二期中期目標  
(平成10年度) (平成17年度～22年度) (平成23年度～28年度)

## 1 果たしてきた役割

地域に根ざした「実学実践」による教育研究活動や地域貢献活動を推進し、約1万2千人の有為な人材を輩出

## 2 県立大学を巡る環境の変化

- ・18歳人口の減少、少子高齢化、グローバル化の進展等、開学当初と比べ大学を取巻く環境の大きな変化
- ・東日本大震災津波からの復興
- ・ふるさと振興、グローバル化を担う人材の育成や地域の国際化の推進

## 3 期待される役割

- ・激変する社会環境や地域からの要請に積極的に対応すること。
- ・県民に支持される魅力ある大学であり続けるため、積極的に自己改革を進めること。
- ・地域に根ざした高等教育機関として、教育、研究、地域貢献について更に充実・強化すること。

## 4 第二期中期目標期間の成果

- ・**全体評価**: 中期目標・中期計画の達成に向けて一定の成果を挙げている。
- ・**地域貢献**: 地域のニーズを踏まえた共同研究、高度技術者の育成への取り組み、県民のシンクタンク機能を果たすとともに満足度の高い公開講座等の実施により地域に貢献しており、非常に優れた成果を挙げている。
- ・**震災復興支援**: 入学料、授業料の減免等による被災した学生への経済的支援、学生ボランティアや教職員による様々な復興支援活動、震災復興研究など、全学一体となって復興支援に積極的に取り組んでいることは、高く評価できる。

## 5 今後の課題

- ①人材育成(県内の自治体、産業界を担う人材の養成等)
- ②卒業生の県内定着(卒業生等の県内就職の促進)
- ③学士課程における基盤教育の位置付け(語学教育の推進等、カリキュラム改正)
- ④研究成果の公表(多様化、高度化する地域課題等に対応するため、教員の研究成果等の情報提供)
- ⑤シンクタンク機能の強化(高い専門性、地域特性に精通した研究者の育成・確保)
- ⑥地域・国際貢献(学生の国際的視野を養う具体的な取組の推進)
- ⑦大学院の定員及び組織のあり方(定員充足のための、大学院教育へのニーズ検証等)

※ 4及び5については岩手県地方独立行政法人評価委員会による暫定評価(平成28年1月)等から主なものを抜粋。

## 第三期中期目標 (目標期間 平成29年度～34年度)

### 1 基本姿勢

目指すもの **いわて創造人材の育成と地域の未来創造に貢献する大学**

未来を切り拓く力を高める教育

未来創造に資する地域貢献

教育と地域貢献の根幹となる高い研究力

《参考》第二期中期目標 基本姿勢

目指すもの **地域の中核人材育成と活力創出に貢献する大学**

学生を主人公とした教育

岩手の活力を創出する研究・地域貢献

### 2 基本目標

#### 1 教育

学生の「知的探究心と創造力」を高める大学

いわて創造人材(知的探究心、創造力を備え、地域の未来を切り拓くことのできる人材)の育成をする。

#### 【ポイント】

・教育内容について、知識・教養を深めるための基盤教育と個々の専門知識を学ぶ専門教育との連携を図る。

・中期目標では、「いわて創造人材」について学士課程・博士課程・短大課程別に目標を記載し、中期計画で、地域や産業界等の分野で指導的役割を果たすことのできる人材の具体的な育成内容を記載する。

・国際的視野の涵養のため、多文化理解の促進、多様な国際交流活動の展開等を記載。

#### 2 研究

新たな価値を創造する大学

地域社会の基盤形成に資する基礎的研究や実学実践に基づく応用的研究、社会環境の変化に対応し専門領域を横断した学術研究を推進し、新たな価値を創造する。

#### 【ポイント】

・独創的、先進的な研究や地域課題解決に資する研究を推進し、研究成果を国内外へ発信し、研究水準の向上を図る。

・外部の研究資金の獲得を推進する。

・地域、産業界、国内外の研究機関等と連携強化し、学際的な研究活動を推進する。

#### 3 地域貢献

地域の未来創造に貢献する大学

地域の「知の拠点」として、復興、ふるさと振興の担い手の育成、県民への多様な学習機会の提供、地域の課題解決に向けた取組を行い、地域の活力創出に貢献する。

#### 【ポイント】

・東日本大震災津波からの復興とふるさと振興への貢献を明記

・県民の生活向上や産業振興への貢献のため、研究成果を地域に還元

・産学公連携の更なる強化を図る。

・地域の国際交流団体と連携強化し、地域の国際化を支援する。

### 4 業務運営等 自主的・自律的な法人運営

安定した財務基盤の構築、教育研究組織の検証と見直し、大学情報の収集・分析や戦略的な情報発信の強化(IR)等により、自主的・自律的な法人運営を実現し、県民から信頼される大学づくりを進める。

#### 【ポイント】

・IRに積極的に取り組み、教育研究活動や大学運営の情報を活用した戦略的な大学運営と、人的資源の有効活用による効率的な組織運営を図る。

・大学院の定員不充足等の課題を踏まえ、地域ニーズや社会情勢の変化に対応した教育研究組織の点検と検証、再構築を図る。

・ワークライフバランスを配慮した働きやすい環境整備など、男女共同参画の推進を明記。

・適正な定員管理の下、教育研究目標の達成に必要な意欲と能力のある教職員の確保・育成を行う。

